きもちのしるし

2017-2018

海外救援・復興支援
活動報告書



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

人間を救うのは、人間だ。 Our world. Your move.

国境も、民族も、宗教も超えて。

赤十字は皆さまのご支援のもと、災害で苦しむ
世界中の人々の救援・復興支援活動を行っています。

この冊子では、日本赤十字社が皆さまからお預かりした
海外救援金を活用して主に2017年から2018年にわたり
取り組んだ救援・復興支援について報告します。
皆さまのご協力に、心より感謝申し上げます。
ありがとうございました。



被災者に寄り添ったこころのケア活動を展開（インドネシア）©Benjamin Suomela/ Finnish Red Cross



表紙写真：シリアを逃れてレバノンで避難生活を送るハシーナさんと子どもたち（P.5）
© 日本赤十字社

写真（P.2-3）左から：©IFRC、© 日本赤十字社、© 台湾赤十字組織、©Benjamin Suomela/Finnish Red Cross、©Benjamin Suomela/Finnish Red Cross、©IFRC/Maria Santto



© 台湾赤十字組織

台湾南部地震支援

リ・ゾンディアンさん

旧正月を目前にして両親に再会するのを楽しみにしていたところ、地震が発生。倒壊した建物に2日以上も閉じ込められたため、命は助かりましたが、左足、そして家族を失いました。震災から3年が経ち、リハビリはまだ続きますが、日本の皆さまのご支援により生活支援を受けることができたので、少しずつ生活を取り戻しつつあります。ありがとうございました。

世界中からの「ありがとう」



皆さまのご支援から生まれた笑顔

ネパール地震支援

ラワ・タマンさん

2015年4月の大地震の時、私はお寺の竣工式に出席していて命は助かりましたが、家は全壊。その後、しばらく竹や防水シートで作ったあばら家に家族全員で住んでいました。あの頃は本当につらかった。

赤十字の皆さんには、住宅再建の補助金支給だけでなく、土地選びや耐震住宅の技術的指導まで、ずいぶんお世話になりました。私は赤十字主催の大工研修にも参加して、自分の家を建てたんですよ。新居は住み心地がよく、また大地震が来ても崩れてしまうことはないでしょう。

温かい心で私たちの村を支援くださった日本の皆さんに心から感謝いたします。


© 日本赤十字社


©Marko Kokic/
Canadian Red Cross

ハイチ・ハリケーン「マシュー」支援

デシェリン・ジョセフさん

ハリケーンで村も家も壊れてしまったのに、誰も来なかったのよ。赤十字が最初に来てくれたわ。

＊デシェリン・ジョセフさんは、7人の子を持つシングルマザーです。一緒に写っているのは、最初にこの村に入ったカナダ赤のモバイル診療のチームリーダー、タマラ・ボルネイバルさん


© 日本赤十字社

中東人道危機支援

ハシーナ・アリ・ハムザさん

7年前にシリアを逃れてレバノンに来ました。ハスバヤ地域のこの非公認居住地に移動してきたのは3ヶ月前です。どこのテントでも暮らしは変わりませんが、赤十字の支援で、トイレを自分たちのテントの真横に建てていただいたことはとても嬉しいです。私には幼い子どもが4人いるためです。

他の家族と共用のトイレまで歩いていく必要がなくなりました。また、草むらや木の陰で野外排泄することもなくなりました。

これからまた寒い冬に向かうので、子どもたちが風邪をひいたり体調をくずしたりしないか、健康面をとても心配しています。

バングラデシュ南部避難民支援

アブドゥル・ハーレックさん（患者さん）とロヒーマ・ハトゥンさん（奥さん）

お金がなくて病院も行けず、クリニックに運んでもらうのもお金がいる。

そんな時にあなたたちが来てくれた。

本当にありがとう。


© 日本赤十字社

中央写真 ©IFRC、© 日本赤十字社

赤十字の

国際活動

赤十字は「いのちと健康、尊厳を守る」ことを使命に191の国や地域にネットワークを持ち活動する、世界最大の人道機関です。

医療や衣食住の支援といった緊急救援だけでなく、その被災者が生活を取り戻し、より災害や疾病に強い地域づくりを支える復興支援に取り組んでいます。



ERU 出動（バングラデシュ）
© 日本赤十字社

緊急救援

迅速な初動でいのちを守る



地震で学校が崩壊、仮校舎で、新校舎の完成を待つ（ネパール）© 日本赤十字社

復興支援

生活を取り戻すことを支える

緊急対応ユニット＝「ERU」

緊急事態・大規模災害発生時に備え、すぐに医療や給水衛生活動などが開始できる専門家と資機材のセットです。

メンバー

医師、看護師、助産師、技術職含む計13人の訓練されたチーム。通常、約1カ月交代

資機材

医療・IT・テント・電気・浄水給水・衛生・生活・事務・食料など全部で17のモジュールから構成

日赤の ERU 基本資機材は、熊本県にある赤十字病院とアラブ首長国連邦・ドバイにある倉庫で1セットずつ保管管理されており、24時間365日、いつでも被災国へ迅速に輸送することが可能です。

マレーシアのクアラルンプールにある赤十字の倉庫には、10,000世帯分のさまざまな緊急救援物資が備蓄されています。



衛生用品セット



シェルターツールキット



キッチンセット

写真左から ©IFRC、©Htein Win/IFRC、©Poul Henning Nielsen/Danish Red Cross

地域保健

住宅再建

生計支援

数カ月の緊急救援の後、被災地の人々の生活を建て直す復興が始まります。赤十字は緊急救援後もその場に残り、地域の人たち自身による生活再建を支えます。

—開発協力—

赤十字がもつ知見を活かし、「自然災害への備え」と「疾病の予防」という2つに焦点をあて、リスクを予見し、対応できる地域づくりを支える開発協力の活動も行っています。



写真：地域のリスクを洗い出すインドネシア赤十字社ボランティア © インドネシア赤十字社

世界中の赤十字ボランティアとともに、皆さまの支援を届けています。



フィリピン中部台風　地域保健ボランティア
シェリル・カニャさん　セブ島メデリン郡キャプタタンノルテ村

「地域の人たちの前で健康教育をするときは正直緊張します。でも健康問題について得た知識を伝えることに大きな喜びを感じています。」

最新情報は SNS、YouTube でも発信しております。

国際活動の詳細はこちらからご覧ください。http://www.jrc.or.jp/activity/international/

1 中東人道危機支援

2010年の末にチュニジアで始まった市民による格差社会に対する抗議行動は、中東・北アフリカ地域の国々に飛び火し、エジプト、リビア、イエメンなどで政権交代を招きました。「第二次世界大戦以降最悪の状況」と言われるシリアの紛争により140万人が家を追われ、国外へ逃れた難民は約550万人。彼らを受け入れている周辺国にも様々な影響を与えています。


避難する人々（2017）
© シリア赤新月社


一家にひとつのトイレの設置を目指す（2018）© 日本赤十字社

難民居住地域水衛生管理事業

難民居住地域で、人々の健康とプライバシーを守る事業。2017年は、5地域の1,400人を対象に2,050の衛生キットを配布、77のトイレと水タンクを設置しました。


© シリア赤新月社

シリア国内越冬支援

シリア国内の家を追われた避難民、紛争の長期化により生活が困窮する人々に越冬支援を行っています。2017年、2,000箱の食糧を配布、10,030人に届けました。


ハイファ病院でスタッフと改善案の協議
© 日本赤十字社

レバノンでの医療支援

2018年4月より、パレスチナ赤新月社の病院で医師、看護師を対象に医療技術支援プロジェクトを開始。カルテ導入、緊急外来に必要な基礎技術を指導しています。


お母さんの食事の支度を待ってるうちに寝てしまった女の子 ©A. Zaid/ICRC

イエメンへの支援

紛争、飢饉、コレラの大流行という3重の災害に直面し、医療施設、薬、食糧の不足による悲惨な状況が続くイエメン。国際赤十字を通じ物資や食料を支援しています。

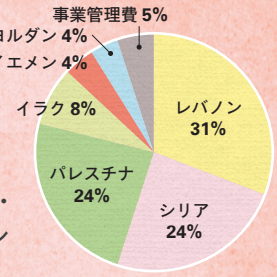
国際赤十字・赤新月社連盟と協力し「届く支援」を行っています。

中東地域では常にどこかで支援を必要とする声が上がり続けています。赤十字は人々の尊厳を守り、援助が困難な場所へも実際に届く支援を続けます。

中東人道危機支援事業に
2015年よりお寄せいただいた

1億6,039万4,605円

を、シリアの現状、将来的復興、イスラエル・パレスチナの衝突による被害者支援、イエメンの飢餓救済などに活用しています。



2017年国別支援割合

2 バングラデシュ 南部避難民支援

2017年8月25日にミャンマー・ラカイン州で発生した暴力行為を逃れ、隣国バングラデシュに避難した人々* は70万人以上。以前からの避難民20万人とあわせ、アジアで最大の人道危機となっています。

＊国際赤十字では、政治的・民族的背景及び避難されている方々の多様性に配慮し『ロヒンギャ』という表現を使用していません。



日赤薬剤師が患者に服薬の説明
© 日本赤十字社



©Victor Lacken/IFRC

避難民キャンプでの巡回診療

日赤は、いち早く医療チームを現地に派遣し、広大なキャンプの中で巡回診療を展開しました。



©Victor Lacken/IFRC

日赤仮設診療所における診療活動

地域最大規模の診療所として開院。母子保健を含み、一日あたり約130人を診察しています。



©A J Ghani/IFRC

地元コミュニティのレジリエンス（回復力）を強化へ

避難の長期化を見据え、地元の医療者やボランティアの育成を強化しています。



© 日本赤十字社

地域ボランティアによる活動スタート

避難民自らがボランティアとしてキャンプに住む人々へ保健衛生の促進活動を始めています。

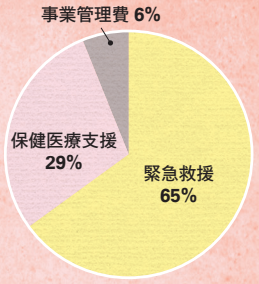
「生きてほしい。」最前線の現場　に皆さまの支援を届けています。

日本赤十字社では医療チーム120人以上を派遣、4万3,000人を診療し、4万人にこころのケアを提供しました。

バングラデシュ南部避難民支援事業に2,404人よりお寄せいただいた

3,905万5,482円

は、バングラデシュだけでなくミャンマーのラカイン州で支援を必要とする人々にも届けられています。



3 自然災害支援

2016年から2018年は地震や洪水といった自然災害が世界各地で発生。
日本赤十字社は赤十字ネットワークを通じて被災者支援を実施しました。

2017.11.12 イラン・イラク地震

マグニチュード7.3の地震により、死者約580人、負傷者約1万人、被災者約43万人の被害が発生。



倒壊したビルの現場での救助活動の様子
© イラン赤新月社

テント、毛布、衛生用品、台所用品、ポリタンクなどの**救援物資**の配布、**応急救護**を行いました。

救援金受付額 1,120万2,099円

2017.07 南アジア水害

近年にない豪雨により、南アジア＊全体で約4千万人が被災。死者1,200人以上、95万棟が倒壊する被害が発生。

＊バングラデシュ・ネパール・インド



支援により届けられた水
© Corinne Ambler IFRC

食料や**生活用品**、**水・衛生環境整備**支援を行うとともに、復興のため**住宅再建**を支援しました。

救援金受付額 1,119万9,216円

2016.10.4 ハイチ・ハリケーン「マシュー」

大型ハリケーンが直撃し、高潮などで842人以上が死亡、被災者は210万人に上りました。



被災者の老人の手を引くボランティア
©IFRC/Nicole Robicheau

救援物資の配布の他、女性が家長であるなど脆弱な家庭に**保存食**や**生活資金**、農家に**種**、漁師に**漁業用具**などを配布しました。

救援金受付額 3,198万4,349円



医療指導を行う日赤の医師と看護師 © 日本赤十字社

インドネシア 2018.9.28 スラウェシ島地震 2018.7.29 ロンボク島地震

2つの島で続けて発生した地震により、死者2,500人、避難者63万人以上の被害となりました。

テントやブルーシートなど雨風をしのぐための**物資支援**を行うとともに、**医療活動支援**のため医師・看護師を現地に派遣しました。

救援金受付額 スラウェシ島 9,142万2,073円 ロンボク島 1,456万8,206円

＊最新の受付額（2018年11月9日現在）

2016.8.24 イタリア中部地震

マグニチュード6.2の地震により、多くの建物が倒壊し、死者296人、避難者は4,454人に上りました。



捜索救助活動の様子 © イタリア赤十字社

捜索救助活動や救急車による**搬送支援**、**食料や生活用品**の配布などの被災者支援を行いました。

救援金受付額 4,973万7,879円

2016.2.6 台湾南部地震

マグニチュード6.4の地震により、死者117人、負傷者550人の被害が発生。



被災者への義援金贈呈式の様子
© 台湾赤十字組織

孤立している被災地域の**学校再建**（10校）及び**修復**（3校）、被災者及び負傷者の**生活・住居支援**、**移動診療所資機材**を供与しました。

救援金受付額 4億5,268万7,900円

復興支援


住宅再建の進捗確認を行う赤十字職員 ◎日本赤十字社

2015.4.25

ネパール地震

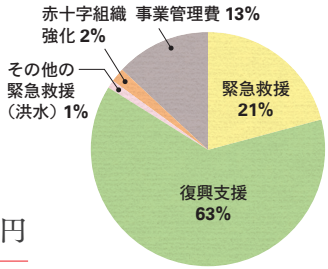
ネパールでマグニチュード7.8の地震が発生。死者8,856人、被災者560万人。国民の5人に1人が被災するという甚大な被害が発生しました。

日本赤十字社は、特に大きな被害を受けたシンドパルチョーク郡において緊急救援活動を展開。その後も同郡において、住宅（1,844世帯）、診療所（14棟）、学校（1校）、水道・トイレ（1,556世帯）などの再建を含む復興支援を行っています。

首都カトマンズから同郡へは約6時間。雨が降ると、舗装されていない山道はぬかるんでしまい、車での移動が困難になります。住宅などを再建するための資材を運べなくなるため、事業が中断してしまうこともしばしばです。

このように、大規模な災害からの復興には時間がかかります。

日本赤十字社は、皆さまのお気持ちを被災地に確実に届け、ネパールの被災者が一日でも早く笑顔で暮らせるよう、支援を続けていきます。



救援金受付額 20億2,491万751円

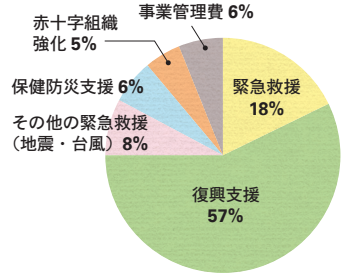
2013.11.08

フィリピン中部台風「ハイエン」

猛烈な暴風雨や高潮で、死者・行方不明者約7,986人、1,600万人が被災しました。

住宅・学校再建の他、現在、セブ島北部において地域住民参加型で進める保健活動を実施しており、4,286世帯の住民への健康教育と、小学生8,053人に手洗い指導を行いました。


現地の子どもたちに手洗い指導をする日赤看護師 ◎日本赤十字社



救援金受付額 17億9,825万5,696円

2010.1.12

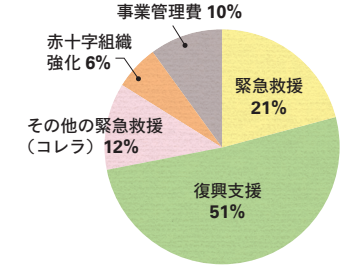
ハイチ大地震*

同年10月、地震の爪痕が残る中、全国でコレラが流行し8,813人が死亡、72万人以上が感染しました。

のべ131人の日赤要員を派遣し、緊急・復興・コレラ対応にあたりました。38万人に家庭訪問などによる感染予防教育を実施。飲料水を浄水する人が47%から94%に、トイレで排泄する人が43%から60%に増加しました。

＊首都近郊を震源地とした大地震により、31万人が死亡、人口の3分の1にあたる370万人が被災。


中央県でコレラ予防のために手洗いを学ぶ子どもたち ◎日本赤十字社



救援金受付額 21億6,207万6,041円

日本赤十字社への
ご協力をお願いいたします。

日本の皆さまのご支援を世界各地の活動へ役立てています。



海外救援金

皆さまからのご寄付は、日本赤十字社を通じて、被災国の赤十字社・赤新月社に送られ、赤十字が行う救援・復興支援活動に役立てられます。
中東及びバングラデシュ南部における状況は現在も危機的で、引き続き皆さまのご支援を必要としています。
ご協力をお願いいたします。

活動資金

国内の会員の皆さまからのご寄付は、災害直後の緊急支援（医療支援や救援物資の配布など）と日本赤十字社の平時の活動（救急法の講習普及、ボランティアや青少年赤十字の育成など）に役立てられます。

ご協力は**クレジットカード、郵便振替、銀行振込**が
ご利用いただけます。**詳しくはホームページをご覧ください。**

日赤　寄付　検索

日本赤十字社　http://www.jrc.or.jp
活動に関するお問い合わせ Tel. 03-3437-7088
寄付に関するお問い合わせ Tel. 03-3437-7082